

チェルノブイリ通信

2013年9月20日

No.93

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



8歳になったアンナちゃんとリュウダお母さん。8、9ページのお便りもぜひご覧ください

特集:チェルノブイリ、フクシマ 汚染された大地の今を知る

木村真三先生講演会・報告

ベラルーシ訪問に向けて
～実施概要と支援のお願い～

リュウダからのベラルーシ便り

山田英雄さん、
ピースアワードHIROSHIMA受賞!

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

●特集 ● チェルノブイリ、フクシマ 汚染された大地の今を知る

木村真三先生講演会・報告

2013年7月14日(日)、獨協医科大学准教授の木村真三先生を福岡へお招きし、九州大学医学部百年講堂にて講演会を開催しました。木村先生は3・11後、当時勤めていた職を辞して福島に向かわれました。福島では各地を回って放射線量の測定に取り組んでいらっしやいます。

第一部

木村真三先生 基調講演



50名超の参加者が熱心に耳を傾ける

福島だけでなく、放射能は全国を汚染した

今日は「FUKUSHIMAを風化させてはいけない」という題目でお話をさせていただきます。

今日の話は大きく3つの内容から構成されています。これからお話しすることは事実ですので、皆さんがここで聞きされたことをぜひとも、今日来られなかった方々にお伝えください。息の長い戦いを続けていかなければ、福島というものが蔑視される。そうではなくて、これは歴史の中に刻まれる問題のひとつだ、という方向に持っていかなければならないというのが私の考えです。

まずは、「放射能は広く薄く全

国を汚染した

ということをお知りおきください



い。他人事ではなく、自分のこととして考えてみてください。これは私からのお願いです。福島県内だけではなく、実は皆さんのところにも放射能が到達していたということ、だから皆さんも一度は被ばくをしています。これは認識すべきことです。長崎大学の物理学者の高辻俊宏先生という方がいらっしやいまして、もしかしたら長崎にも放射能が届いているのではないかということ、事故直後に放射能の測定をし

今回の講演会は、木村先生の基調講演、長年チェルノブイリ支援に携わってこられたロシア語医療通訳の山田英雄さんとの対談、そして「100人の母たち」スライド上映という3部構成で企画しました。スペースの都合上、簡単な報告となりますが、詳しい報告資料もありますので、ご希望の方は事務局までお気軽にお問い合わせください。

(報告/CMN理事・平川可南子)

ていただきました。すると事故

からわずか2週間後、特に4月6日〜13日の一週間が最大ピークになるのですが、セシウム137と134が到達していました。この長崎で検出された量というのは、塵を集めたら、1kgあたりに換算して、飯館村^{いわがびら}蔵平の汚染土壌と同レベルのものでした。ということは、この福岡市も一度は汚染されている、そう考えたときに「これは他人事ではないのだ」ということを理解していただきたいと思えます。

福岡第一原発が不幸にして事故を起こしました。震災による全交流電源喪失によってメルトダウンした結果、大量の放射能が放出され、その放射能が山々を汚

Profile/
木村真三(きむら しんぞう)

獨協医科大学准教授、同
学国際協力支援セン
ター国際疫学研究室福
島分室室長。3.11後に
福島へ向かい、各地で放
射線を測定する。この様子が
2011年5月15日、NHK ETV特集
「ネットワークでつくる放射能汚染地
図」として放映され、反響を呼ぶ。
この他、チェルノブイリ原発事故で被
害を受けたウクライナ共和国ジトー
ミル州ナロジチ地区の住民の健康調
査も行っている。
2012年4月、(特活)放射線衛生学
研究所を設立、理事長に就任。



Profile/
山田英雄(やまだ ひでお)

広島大学原爆放射線医
科学研究所非常勤講
師。広島出身の被ばく
二世。幼い頃から原爆
の後遺症に苦しむ母の姿
を見続け、高校卒業後、モスクワのバ
トリス・ムルンバ民族友好大学医学
部に進学。旧ソ連の医師免許を取得
する。
チェルノブイリ原発事故後、自身の能
力を活かして被災者支援に携わりた
いという想いを抱き、1997年からC
MNとともにベラルーシでの被災者
支援事業に取り組む。この他、旧ソ
連時代に核実験の被害に遭ったカ
ザフスタン共和国セミパラチンスク
市での活動にも関わる。



染し、我々の家々を汚染し、その
汚染されたものが雨とともに川
を汚染し、最終的に海を汚染し
てしまった。こういうところから

放射能というものをきちんと教
育、勉強していったら、放射線につ
いて学んでいくのが本来の学校教育
の場であります。ところが学校の
副読本として出されているものに

は、この部分がカットされていま
す。「世の中には放射線は当たり
前にあります」「飛行機に乗って

も、レントゲンを撮っても被ばく
をする」というような話のすり替
えが起きているのです。これでは

いきなり「放射線とは」と説明し
ても、絶対に伝わりません。福島
の前に広島や長崎という話を入

れ、きちんと歴史的な部分も含め

て教育をやっていくべきではない
かと思っております。

事故による健康被害は、 まだよく判っていない

2番目に、これから申し上げる
のはとても重要なお話です。「健
康影響は無いのではなく、まだよ

く判らない」ということです。事
故からたった2年しか経っていな
い、まだ何も判っていないのに、

「無い」と言うのはそもそもおか
しい。これをあたかも判ったかの
ように政府、学者、新聞が「無い」
と言うのがいけません。

「甲状腺がん 新たに9人」
これは福島民友新聞の記事で
す。一次検査、17万4000人確
定、その結果の内訳が書かれてい

ます。これまでの検査実施主体の

福島県立医科大学は、チェルノブ
イリ原発事故によるがんが見つ
かったのが事故の4〜5年後以降
だったとして、福島での検査結果
について「放射能の影響は考えら
れない」と説明していますが、そ
うではありません。これはチェル
ノブイリ原発事故の4年後、5年
後に動かざる証拠が出てしまっ

て IAEA(国際原子力機関)、IC
RP(国際放射線防護委員会)が
認めたということです。こうした
甲状腺がんの発症は、4、5年後

よりももっと早い時期にベラルー
シでも、ウクライナでも報告が出
されています。こういった現実と
いうものが隠されているのです。

新聞報道では6月5日現在、2
012年に福島県内の18歳以下

を対象に調査を行った結果、17
万5499人のうち、甲状腺がん
になった人は12人、疑いのある人
は15人、合わせて27人であったと
言われています。この内容をきち
んと解釈し、これからお伝えする
のが真実です。

一次検査を行った方々が17万5
499人です。そのうち二次検査
に回った人が1140人いまし
た。二次検査が終わった人は5月
27日現在で421人、そのうち検
査の結果が出た人はもっと少な
く383人です。つまり、「二次検

査を受けたこの383人のうち、
12+15=27の方が、がんもしく
はがんの疑いがある」という結果
が出された。この結果について、異

常ではないという方がおかしい。
今までのデータを見てもこのよう

な異常は見つかっておりません。
それを国や県は否定しています。

こうした20歳未満の子どもたち
の場合、10万人に対して甲状腺が
んが一人出るか出ないかの状況と
いうのが今までの、事故前の罹患
率です。それが今現在、こうやっ

て増えている。これはあくまでも
私の仮説ですが、がん検診をして

このような結果が出てきたのはスクリーニング効果ではなくて、明らかに何か異常が起きているのではないかと感じております。

忘れた人にこそ、フクシマの現実を伝えてほしい

これは命からがら津波を回避して沖合に船を出した浪江町^{うね}戸漁港の漁師さんからの話です。彼は、ずっとボロボロになったサンダルを履いています。彼に尋ねると、「これ？ 婚約者だったんだけど俺のこと心配で請戸漁港に車走らせてるときに、津波にのまれたんだ。そんなときに「あんた、そんなもんしか履いてねえから、もうちよつといいサンダル履け」って、俺の誕生日祝いで持ってたサンダルで、これ、形見になったんで、俺ずっと履いてんだ」と答えてくれました。こういったことが現実起きています。こうした言葉というものが全然伝わっていない。たった2年で忘れていいのか。ここには皆さん、意識ある方が来てくださいました。しかし本当は忘れた人たちが

に伝えたい。でもここで私が伝えるのは無理です。だからこそ今日皆さんが、来ていただいた一人一人が、今日来ていなかった人に「こういった話を聞いたんだ」ということを伝えてください。一人でもよいです。そうすれば倍の数になります。そうやって広げていくことが、今一番大切なことです。これが福島について語るといふことなのです。

また3番目として皆さんに知ってもらいたいことは、誰のための情報なのかということ。首相官邸では、この度の非常事態、緊急事態で国民がパニックに陥るから情報を操作したと説明していますが、国民は馬鹿ではありません。冷静に判断できる知恵も知識もあります。それは正しい知識を伝えることによって、正しい判断ができるからです。この部分をまず怠っていることが問題なのです。また、専門領域を超えないことも重要です。分からないことに対しては「すみません、私の範疇^{はんちゆう}を越えています、私には分かりません」とはっきり伝えることです。事実しか伝ええないという

のが私のスタンスです。

信頼関係を築きながら、共に解決策を見つけ出す

放射能を知ることによって、きちんと放射能を理解しながら戦っていくことで、生活ができませんよ、という話です。外部被ばくというのは物理的解釈。内部被ばくは放射性物質がもつ化学的な性質や薬物動態学などの解釈をすべて考えて理解していかなければなりません。このようなことをきちんと説明しないで、放射能をただ怖がるのもいけないし、全てのことを人任せにすることもよく

ありません。だから私は福島県民に対しても文句を言います。

最後に、大事なことは信頼関係を構築しながら住民の営みから抽出される問題点を見つけ出し、その中から解決策を講じていくことです。問題点を抽出することは批評家にもできますが、解決策を構築していくというのを前面に出さなかつたら、結局は放射能に対して戦っていくことにはなりません。

今日は呼んでくださってありがとうございます。ごさいます。「福島だけじゃない、これは全国のことなんだ」と感じ取ってくださいれば、私はそれが一番の支援だと思っています。

第二部 対談／木村真三先生×山田英雄さん



第二部では、まずロシア語医療通訳の山田英雄さんから、スライド写真とともにチエルノブイリに関する報告をしていただきました。その後、参加者の方々からお寄せいただいた質問について、お二人にお尋ねしていききました。次ページより抜粋してご紹介します。

(写真は来場者からの質問に答える木村先生(中央)と山田さん(左)の様子)

Q. チェルノブイリについて

- ・27年経った今でも住めない範囲はどれくらいか？
- ・原発周辺は今、人が住める状態なのか？
- ・チェルノブイリの除染のこと、福島での除染の効果は？

山田) チェルノブイリでは、セシウム137の汚染レベルが40キユリー／km²以上で強制避難、15〜40キユリー／km²で強制(義務的)移住ゾーンとなっていて、原発から半径30圏外にもそうした地域が点在しています。しかし現在、そこへほとんど人が戻ってきている。

このような人に対しては、ほとんど黙認している状態です。また、ベラルーシはきちんと汚染地図を作成して、それに基づいて住民を帰還させています。

(※1キユリー／km²は37キロベクレル／km²に相当します。)

来場者からの感想(抜粋)

・福島、チェルノブイリを重ねて情報を頂戴する機会をつくっていただきありがとうございます。

・福島のこと、いろんな情報が錯綜していて何が起きているのか、これから何が起きるのかよくわからず、今も不安は続いています。お話を聞いて、福島に近くことができました。

・今やひとりひとりの大人が何らかの行動を起こす時だと感じます。科学者、医学者、一般の人、それぞれが自分の生活を正すことから始め、責任ある行動をし、子どもたちに安全な社会を世界を渡したいと思います。そのためにも、自分の生活に犠牲を払ってまで活動される良心的な学者の方を支えることも大事だと思います。今日はお話を聞いてよかったです。先生方、お体に気をつけて。

・いろんなグループの方々のご意見を伺えたのがとても良かったです。とても大切な集まりに参加させていただいて本当に良かったです。自分がこれからどうすればいいのか、新たな道が加わりました。ありがとうございました。

・自分で情報を選択し、どこまで許容するのか決め、家族、友人と意思を共有することの重要性を感じる。だが今の自分に行動できるだけの判断力が、答えがあるのかわからない。

木村) 除染の効果に関しては、飯館村といった汚染が高いところは

かなり厳しいです。本当に無駄な事をしていのではないかと思っ

ていることはあります。無駄な除染をする必要はありませんが、効果的な除染をきちんとやっていると場所もあります。都市部では特にそうです。

Q. 線量について

・東京の線量はウクライナのキエフと同じくらいという表現を聞いたが実際はどうなの？

木村) 事故によって今福島は、セ

シウム134と137というものに支配されています。134は半減期が2年、137は30年です。ウクライナの場合は137と134が2：1の関係でした。ところが福島は1：1の関係です。ということはセシウム134の割合が多い日本、東京のほうが、どんどん減衰は進みます。線量は下がっていきます。

Q. 情報について

・何を信じればいいのか？

・分からないということに対し、どう私たちは動けばいいのか？

木村) 「地元できちんと調査をし

てくれ」と要望書を出す、全国の方々が「検査結果を公表してくれ」と声を上げることが一つでは

ないかと思えます。通常ではありえないくらい線量が高くなっている地域が存在しますが、ほとんどが公表されていない。福島だけの問題にされていることが、ある意味での分断につながっているのではないかと思えます。あとひとつ、福島で流通している食品のかなりの部分は全県で一番安全なものです。親御さんが自分達の子どもを守るために必死なので、徹底的に調べられているからです。また、食べるなど、勝手な自己判断というものが内部被ばくを続けているというところもあります。

Q. 福岡市の危機管理について

・150万人都市、福岡市の危機管理のあるべき、望ましい考え、市民としてどういうことをやっていけばいいのだろうか？

山田) 事故に対する一つの対策と

かなければいけないと思います。

木村)私も対策としては同じです。ただ、「原発、再稼働またするの?」というところが原点ですよ。福島、終わってねえべ。これを考えて、本当に再稼働を前提とした想定をするべきなのか。これを受け入れてしまえば、逆に言うと、原発の再稼働を受け入れることになるのではないかというのが私の考えです。

第三部 スライド上映 『100人の母たち』

第三部では、3・11後にお子さんとともに福岡へ避難されたフォトグラファーの亀山ののこさん作『100人の母たち』のスライド上映を行いました。上映前には福岡を中心に活動する「ママは原発いりません」共同代表のあやもさん(写真)からのお話がありました。抜粋してご紹介します。

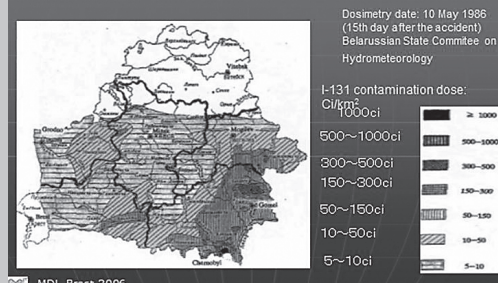


山田さんのスライド報告より抜粋紹介



カザフスタン、セミパラチンスク核実験場
1949年8月29日の原爆実験、1953年8月の水爆実験の爆心地となった場所

I-131 contamination map of Chernobyl, in Belarus



ヨウ素131によるベラルーシの汚染地図
事故から5月10日までの汚染状況を示す



96年4月、キエフ内分泌代謝研究所
頸部リンパ節にがんが転移した症例

避難者の話に耳を傾けてほしい

3・11当時、私は東京都大田区に住んでいました。長男は1歳3ヶ月、お腹の中には次男がいました。

避難を考えるきっかけとなったのは、2011年5月中旬に長男の下痢と鼻血が止まらなくなったこと。その症状についてネットで検索すると「広島、長崎」「チェルノブイリ」「内部被ばく」、そして「福島」というキーワードが出てきて、鈍器で殴られたような気持ちになりました。

その後、子どもを守るために福

岡へ避難してきました。

身寄りもない九州の地で、一人で子どもを守っていかなければならぬという覚悟もありました。でも、あたたかいサポートを受け、たくさんの友だちや理解者と出会うことができました。今も東京には大事な人、友だちが多く残っています。その中には避難したいけれど、知らない土地へ移り住むことに不安を感じている人もいます。

私がそうだったように、避難者の話を聞いてくれること、生活に役立つ情報を教えてもらえることは、避難者にとってはとてもあ

りがたい行為です。だからもし皆さんの近くに避難者の方がいたら、ぜひ話を聞いてあげてください。

大人は何でも自分で選択できますが、子どもは選ぶことができません。だから親が子どもに正しいことを伝えたいといけない、私は自分の知っている情報を周りの人たちに伝えたい。たとえ意見が食い違っても、話し合う中でベストの選択をして、子どもたちの将来を守っていききたいです。

ベラルーシ訪問に向けて

— 実施概要と支援のお願い —

今年も9月23日(月祝)〜10月5日(土)までの期間、医療専門家とともにベラルーシを訪問します。前半はCMNスタッフによる各地での調査や情報収集、後半は日本医科大学のメンバーと合流し、ブレスト州での甲状腺内視鏡手術などを予定しています。各地での主な実施概要についてお知らせします。

ミンスク州 / МИНСК

医療機関等での情報収集、現地調査

:ベラルーシ赤十字、医学再教育アカデミーなどを訪問。関係者へのヒアリングなどを行い、チェルノブイリの被害の現状や対策についての情報を集めます。

母子の支援に取り組むローカルNGO「コンフィデンス」:前号ではヨーロッパでの保養事業について紹介しましたが、被災地でできる支援や活動などについて、福島支援に生かせるような事例を探ります。



医学再教育アカデミー
デミチク所長



ゴメリ州 / ГОМЕЛ

福祉工房「のぞみ21」

:関係者への取材、商品仕入、会員の皆さまからお寄せいただいた運営カンパの贈呈などを行います。

医療機関等での情報収集、現地調査

:チェルノブイリに最も近く、被害も大きかったゴメリ州。事故から27年経った汚染地域の現状について、現地調査や関係者への取材を通し、その実態を把握します。



のぞみ21経営者の
ナターシャさん

ブレスト州 / БРЕСТ

甲状腺内視鏡手術

:ブレスト州立病院にて、甲状腺内視鏡手術を行います(執刀医は日本医科大学の清水一雄教授)。

また同院で内視鏡手術を中心的に担うイーゴル医師への取材を行い、ベラルーシでの内視鏡手術の広がりや今後の課題などについて把握します。

医療機関等での情報収集、現地調査

:これまでのブレストでの甲状腺がん検診プロジェクトをふり返り、現状を把握するとともに、今後の効果的な支援にむけての対策を現地関係者らと協議します。



ブレスト州立内分沁診療所
アルツール所長

チェルノブイリの経験とノウハウをどう生かすか

私は今回で5回目の調査団参加となります。東日本大震災から3回目となりますが、年を重ねることに27年を迎えたチェルノブイリ原発事故へのベラルーシの対応が日本でどう生かされるのが求められていると切に思っています。未だに迷走している福島第一原子力発電所の対策を見ていて、ベラルーシでのこれまでの経験とノウハウの蓄積を私たちはどう広めていくべきかと考えています。

募金してくださる会員の皆様に代わり、行方からにはしっかりと吸収するものを得て帰国したいと思えます。いつもCMNを支えていただいている会員の皆様には感謝しております。無駄のない調査団にして参ります。

CMN理事 / 川原秀之



派遣事業実施のためのご支援のお願い

遠くベラルーシまでの派遣事業実施には、多額の費用が必要です。

日頃から様々な形でご支援してくださっている皆様にこのようなお願いをするのは大変心苦しいのですが、今なお被害の続くチェルノブイリの被災者支援のため、どうかご協力くださいますようお願い申し上げます。

派遣に必要な
費用は総額
約380万円

悲しみに直面しても、お互いを助け合う気持ちを失わないように

この会報でも何度も登場している現地スタッフのリユドミラ・ウクラインカ(愛称…リユード)さんよりお手紙が届きましたのでご紹介します。
リユードは15歳のときに甲状腺の摘出手術を受けました。その経験を生かそうと、大学では臨床心理学を専攻。心理カウンセラーとして甲状腺疾患を経験した子どもたちの心理療法に携わってきました。現在はミンスクの大学にて心理学を教えています。

金融危機によって公共サービスも不十分なものに…

皆さん、こんにちは。また皆さんにお目にかかれて嬉しく思います。ベラルーシはここ数年、金融危機に悩まされています。そのせいでいくつかの無料サービスが廃止になりました。その中には医療サービスも含まれています。バレンチーナ・ドローストやタチアナ・レオノバが運営していたミンスク甲状腺センターも、もはやありません。私も娘もそこで血液検査やエコー検査、医師の無料相談を受けるなど、いつも診てもらっていたのでとても残念です。

国内に原子力発電所を建設することが決定し、その建設が

私たちは親戚や友達や知り合いをがんで失っています。去年私の叔父は63歳で亡くなり、今年も、数週間前ですが、私の前の上司だった女性が44歳で亡くなりました。9歳の男の子を残して。そして私の友だちの親戚には、若くしてがんで亡くなった人が多いのです。死亡や病気の統計データは私たちにはわかりませんが、公表されています。けれども、若い人たちの間で亡くなっていく人が多いので

Здравствуйте,
дорогие друзья.



ベラルーシの伝統的な花祭りにて

す。

人や自然とふれ合うことで喜びと調和を感じる

もちろん私たちはお互いに助け合う気持ちを失わないように努力しています。私は今まで通り、将来心理学者になる学生たちに、大学で心理学を教えてください。また、友だちと会ったり、フラワーアレンジメントの仕事をしたりしていますが、それは私の人生に喜びと調和を与えてくれるのです。

アンナ(私の娘、8歳)は1年生を良い成績で終え、2年生に



右から3番目がアンナちゃんです

こちらもCHECK

リユータの物語は通信87、88号のイラストページでも紹介されていますのでぜひご覧ください。



2013年8月4日
リユドミラ・ウクラインカ

なるところです。彼女はピアノと絵を習っています。そして、私のフラワーアレンジメントを手伝ってくれます。今年は『イワン・クパーラ』という伝統的な花祭りに彼女と一緒に行ってきました。『イワン・クパーラ』とは、ベラルーシに古くからある民族的なお祭りで、娘たちは花の冠を編み、それを川に流します。私は自分用とアンナ用の冠を編みました。写真をご覧くださいね。このお祭りは多くの人々に幸せをもたらします。皆さんのお気に召せばいいのですが。皆さんのご健康と幸福をお祈りして。

祝 山田英雄さん、ピースアワードHIROSHIMA受賞!



表彰状と副賞を手に記念撮影

この度、CMNのロシア語医療通訳を務める山田英雄さんが、平和貢献活動が続ける個人や団体を表彰する「ピースアワードHIROSHIMA」を受賞されました。

この表彰制度は、被爆地・広島からの平和発信として、広島県などが中心となって企画した「ピース・アーチ・ひろしま」の一環として創設されたものです。8月2日(金)には、広島グリーンアリーナにて表彰式が執り行われ、湯崎英彦広島県知事より表彰状を受け取りました。

翌3日(土)の中国新聞

に掲載された山田さんのコメントには、今回の受賞に関して、「意義ある活動と認められ、支えてくれた人への恩返しになる」とありました。

医療支援といえば、やはりドクターにスポットが当たりがちですが、チェルノブイリの被災地ベラルーシでの医療支援活動における、ロシア語医療通訳という「言語と医療」双方の知識を有する山田さんの働きが客観的に評価されたことに對し、CMNスタッフ一同も大変嬉しく思います。

改めまして山田さん、この度の受賞、本当におめでとうございます!

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。
<http://www.cher9.to/>

7月12日 北九州市立大学へ講師派遣



講演中の河上理事

毎年ゲストスピーカーとして呼んでいたでいる「NPO論」の講義にて、団体の活動紹介をさせていただきました。今後イベントなどのボランティアスタッフとしてなど、受講生の方が一人でも活動に関心を持ってくださいと嬉しく思います。

7月17日 NGO合同説明会



CMNブースにて活動紹介

西南学院大学にて、同学と(特活)NGO福岡ネットワークの共催で開催された合同説明会に参加し、大学生の皆さんへ団体の活動紹介などを行いました。全体で100名以上の参加があり、福岡県内の大学生の国際協力に対する関心の高さがうかがえました。

8月1日〜3日 ピース・ワールド



マトリョーシカなどが人気でした

広島市にて開催されたイベントにてブースを出展し、活動紹介や物販を行いました。3日間とも猛暑で大変でしたが、のぞみ21商品を中心に計3万円超の売上を達成しました。事務局ブログでも写真付きで報告していきますので、ぜひご覧ください。

8月18日 第4回ラブ&ピースフェスタ



出展ブースにて

昨年につづき、福岡県糟屋郡のサンレイクかすやにて開催された「ラブ&ピースフェスタ」に参加し、活動アピールや資料展示、物販などを行いました。今年新たに販売中の缶バッジなどの小物を中心に、まずまずの売れ行きでした。

8月24日

「ジェンダーとNGO」福岡ワークショップ



講師の織田先生

外務省NGO研究会「ジェンダーとNGO」の福岡でのワークショップに参加してきました。北九州、ケニア、インドなど世界各地の事例をもとに、「ジェンダー主流化」「災害とジェンダー」「環境とジェンダー」といったテーマについて色々と学びました。

★ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ★

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍など)を合計5千円以上ご注文いただいた先着15名の方にベラルーシのお土産をプレゼントします！

期間 2013年 9月15日(日)～10月15日(火)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。

※プレゼントは9月のベラルーシ訪問中に仕入れるため、
ご注文の商品とは別に遅れて発送する場合があります。予めご了承ください。



新商品も登場！

私も応援しています!

会員さん 紹介コーナー

Vol.19

このコーナーでは、チエルノブイリをとともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／三島

本日の会員さん

福間由紀子さん

〈広島県〉



チエルノブイリでの経験を、福島に生かすための情報発信を。

10年以上前だと思えますが、ロシア語医療通訳の山田英雄さんの紹介

で、チエルノブイリ支援運動・九州（チエルノブイリ医療支援ネットワーク（以下CMN）の前身団体）の広島での報告会に参加して活動を知りました。若い方々が主導的に、しかも地に足のついた活動をされているなど感じました。現在CMNではロシア語ボランティアをしています。

ソ連がゴルバチョフのペレストロイカとグラスノスチによって大きな変化を遂げようとしていた矢先に起こったチエルノブイリ原発事故は、すぐに原爆の後の広島を思い起こさせ、これから大きな被害が出るのではないかと思いました。まもなく、日本から現地に粉ミルクを送る運動が始まっ

たのを覚えていきます。

その後、旧ソ連のエストニアに夫の仕事の関係で滞在しました。（それがロシア語を学ぶきっかけですが）食料品がどのように流通していたのかわかりませんが、当時は長い行列に並んでようやくパンと牛乳が買えるような状況でしたので、食べ物に気をつけたりする余裕はありませんでした。帰国してからは、チエルノブイリやセミパラチンスクの方とお会いする機会が何度もありました。やはり広島でのロシア語のニーズは、必然的に放射線被ばくに関するものになるのかもしれない。それもCMNに関わる一因であったと思います。

人と人との関係はギブアンドテイクが理想だと思っています。常に一

方が援助し続ける状況では対等な友情は育まれないのではないのでしょうか。CMNが行ってきたプレストでの支援によって、現地の医療関係者の技術はすでにかなり高くなり、自立に近づいていますね。また「のぞみ21」の作品を購入して販売することも自立支援となっていて良い支援体制だと思えます。今後は現地に本当に必要な支援は何なのかを確認して、取捨選択していくことが必要だと思います。支援だけでなく、情報収集なども重要な仕事ですね。

また今はやはり福島に私たちは何ができるか、今までの活動を福島にどう生かすのかを真剣に考える時だと思います。原発事故の影響を考えると、例えば健康被害が放射線によ

るものなのかどうかを判断することは、専門家の方々の間でも様々な意見があり、誰もが正しいと言える結論が出るには相当な時間がかかりそうです。まして私たち市民が、どの意見が正しいかで論争していてもあまり意味はないように感じます。それよりも、放射線の影響であろうとなかろうと、原発事故がなければ起きなかつた被害は「原発被害」としてとらえるべきではないでしょうか。

事故直後、入院していた病院から避難のために移動したことで、たくさん患者さんが亡くなられたと聞きました。事故がなければ助かった命かもしれないのです。また慣れない仮設住宅での生活による精神的な負担で病気になってしまった方、本来外で元気に遊ぶべき子どもたちが遊び場を奪われることで生じた問題、職を失ったり、遠い職場に通わなければならなかったり、家族が離れ離れになったり……。国としても民間団体としてもしっかりと考えるべき問題だと思います。

CMNとしても、今まで通信などで発信してきた情報をもっと福島の人に伝える努力をしたり、必要とされる情報を調べたりすることも活動の一つとしてはいかがでしょうか。

（談）

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

- 赤尾恭子 上里恵子 秋山順子 浅野美智留 浅原望樹 生田裕美 石橋芳子 板井順子 伊藤美子 井上美智子 岩本洋子 岩森久美 上野恵子 宇都宮裕子 江口美知子 榎本みつ枝 大木敬幸 太田千賀子 大谷正穂 大野弘恵 大森智子 岡野祐子 沖佐和子 鬼塚令子 小野政江 釜堀恵子 辛島恵里 川辺希和子 木村喜久枝 久保山彬子 栗田光子 桑原茂喜 高口千波 小西由起 小宮田鶴子 坂田洋子 佐々木孟 笹栗双美子 佐藤恵美子 佐藤久美 サトウ矯正歯科クリニック 図師泰子 高橋武三 高山幸子 武富美穂子 田中幸村 谷口正彦 種和子 遠矢秀三 悦子 朝長ゆかり 永池美保 永雄千恵子 中川いく子 中川洋慶 長崎県職員連合労働組合女性部 中地重晴 中村幸枝 永山水華 西尾京子 西山千代乃 新田ひとみ 日本医科大学学長 田尻孝 野添いずみ 箱田裕司 半田政彦 檜垣由美子 引田良子 日高太 平島懐子 幣旗恵美子 前田栄子 前田泰子 前田祐子 松井岩美 松下京 松永和子 松永陽子 丸田裕子 丸山さより 三根麻理子 宮田京子 めぐみ保育園職員一同 毛利赫子 森悠子 守山美佐子 柳田裕子 山内町子 山尾桃子 山口幸子 山口英明 過足智子 吉田久美子

- 【都道府県別】
- 【福島県】1名 【東京都】6名 【神奈川県】2名
- 【千葉県】2名 【新潟県】1名 【静岡県】2名
- 【愛知県】1名 【岐阜県】1名 【三重県】1名
- 【滋賀県】1名 【大阪府】1名 【兵庫県】6名
- 【鳥取県】4名 【島根県】10名 【岡山県】4名
- 【広島県】22名 【山口県】19名 【愛媛県】1名
- 【福岡県】16名 【佐賀県】13名 【長崎県】14名
- 【熊本県】40名 【大分県】21名 【宮崎県】6名
- 【鹿児島県】18名

計347名(匿名含む)

合計	1,509,472円
活動支援金の のぞみ21カンパ	1,357,472円
雪だるま3号カンパ	27,000円
東日本支援カンパ	21,000円
	104,000円

- マンスリーサポーターの皆さん
- 相川靖 相羽美香子 石本祥一郎 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 齊藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 中島まゆみ 永野沙智子 中村洋子 榎崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 洲田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉丸隆子 渡邊真志子
- 計122名(匿名含む)

(2013年5月1日〜7月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑誌、支援コーヒー、紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方の掲載しています。)

編集後記

木村先生の講演会やピース・フィールドなど7、8月はたくさんイベントがありました。9月にはいよいよ検診団・調査団がベラルーシに向けて出発します！活動の報告を、ぜひお楽しみに！(平)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●皆様の活動を尊いと思っています。本当に微力ですが、少しでもお役に立てれば幸いです。●おしく安全で有意義なコーヒーをありがとうございます！●原発事故は起こるといふことを忘れないように！●オリンピック誘致より復興を優先すべき！●ポラタンはともいいきっかけになるんですね。●命を大切に政治が行われますように願います。●子どもたちへ明るい未来を。●いつもステキな商品を作って下さるのぞみ21の皆さんの幸せを願っています。●電力会社の原発再稼働申請にはあきれます。●これ以上、放射線被曝を出さないために、共に頑張りましょう。●チェルノブイリの原発事故を風化させないために、これからも情報発信しつづけて下さい！●忘れてはいけないチェルノブイリ、フクシマ、ヒロシマ、ナガサキ、オキナワ…。●一日でも早く元の生活に戻れることを祈っています！●チェルノブイリ事故の検証も生かしていない政府の原発推進に憤りを感じます。●通信を読むと、自分に引きよせて考えるきっかけとなります。●これからも応援させて下さい。



チャリティヘアサロン スネガビーク2013

あなたのオシャレで
国際貢献!

プロの美容師さんに髪を切ってもらって、気軽にオシャレに国際貢献してみませんか？ イベントの収益は、チェルノブイリ原発事故および東日本大震災で被害を受けた方々の支援にあてられます。ご予約をお待ちしています！

- 日時:10月14日(月祝)10~15時
- 場所:福岡 大村美容ファッション専門学校 オムニススタジオ (福岡市中央区大名2-1-35-2F)
- 料金:1500円(シャンプー、カット、フロー)
- 定員:60名(予約優先・先着順)
※パーマ、カラーなどはありません。
- 予約:こくち一斉申込フォームからどうぞ
<http://p.tl/9s3T>